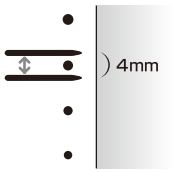
注意点 1 右手

繊細な右手の動きで破壊的なサウンドを出そう

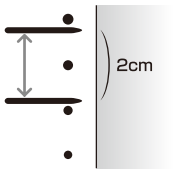
この曲で何度も登場するマシンガン・ピッキングは、破壊力と疾走感をいかに生み出すかがポイントになる。力任せに弾くのではなく、ピックの振りに気をつけることが大切だ。一般的な速弾きに適したピッキングは、無駄なく振り幅を小さくしたタイプ(図 1-a)。しかし、これでは音圧感が出せない。それに対して、ピックを両隣弦間約 2cm のギリギリまで振るタイプでは、音圧感のあるサウンドを生み出すことができる(図 1-b)。いわゆるマシンガン・ピッキングとは後者を指す。この 2cm 間を行き来する繊細なコントロール力をもっていなくてはいけないのだ!

図1-a　一般的な高速ピッキング



振りが小さく無駄が少ないが、
音圧感が出ない。

図1-b　マシンガン・ピッキング

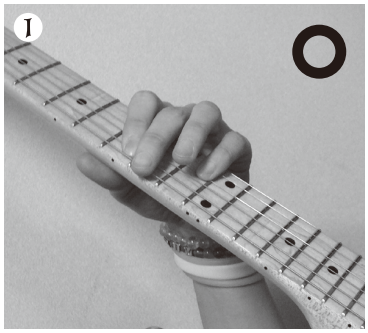


振りが大きいため、音圧感が出せる。
ただし、ピッキング・コントロールが難しい。

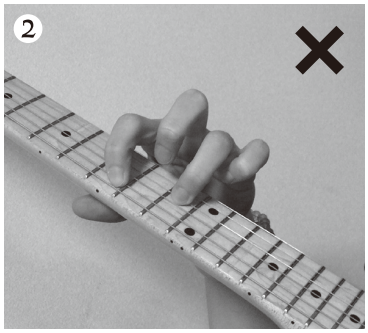
注意点 2 左手

オクターブ奏法の押弦は人差指と小指で行なうべし!

イントロでは、オクターブ奏法を使用する。オクターブ奏法は、もともとウェス・モンゴメリー【註】などのジャズ系ギタリストのテクニックとして知られていたが、最近ではラウド系リフにも欠かせないテクニックだ。不要弦のミュートが鍵を握るが、筆者は押弦には人差指と小指を使用することをオススメしたい(写真①)。人差指と小指で押弦すると、指を寝かせることができるので、人差指と小指の腹部分で不要弦のミュートを行なえる。また中指を伸ばすと、6 弦のミュートも可能だ。ちなみに、人差指と薬指で押弦すると、指が立ってしまい、不要弦のミュートが難しくなる(写真②)。こちらは、残念ながらオススメできない。



人差指と小指による押弦パターン。指を寝かせることができるので不要弦のミュートが行なえる。



人差指と薬指による押弦。指が立ってしまう分、ほかの指の使用が難しくなり、不要弦のミュートが甘くなる。

注意点 3 理論

独特なポジションによるペダル奏法を覚えよう!

D5 小節目には、ペダル奏法が登場する。ペダル奏法とは、ベース音を持続させた状態で上のハーモニーを展開させたり、逆に高音を一定に保ちながら下のハーモニーを展開させたりする奏法だ(図 2)。ここでは、高音部にペダル音を設定していて、ペダル音は 3 弦 11 フレット(F♯音)になっている。フレーズの軸は 3 弦 11 フレットになるので、3 弦 11 フレットをきっちりと鳴らすように心掛けることが大切だ。一般的にペダル奏法は、独特なポジショニングやピッキングの弦移動が多いので、慣れるまで何度もくり返し練習するようにしよう。

図2　ペダル奏法

…3弦11フレット(F♯音)がペダル音になる

【ウェス・モンゴメリー】アメリカ出身のジャズ・ギタリスト(1923-1968)。オクターブ奏法をジャズ・ギターに定着させた重要人物で、ピックを使わず親指 1 本でピッキングを行なったことも特徴的。